

大会名 Competition	平成24年度 第43回 全国高等学校選抜優勝大会 秋田県予選大会 バスケットボール競技
NO. M-2	Year Month Day Time 2012 年 10 月 28 日 14 : 00
場 所 Place	横手市増田体育館



秋田県高等学校体育連盟  
バスケットボール専門部

チーム A		チーム B															
能代工業	<table border="1"> <tr><td>41</td><td>1st</td><td>12</td></tr> <tr><td>36</td><td>2nd</td><td>18</td></tr> <tr><td>12</td><td>3rd</td><td>27</td></tr> <tr><td>31</td><td>4th</td><td>21</td></tr> <tr><td colspan="3">OT</td></tr> </table>	41	1st	12	36	2nd	18	12	3rd	27	31	4th	21	OT			平成
41	1st	12															
36	2nd	18															
12	3rd	27															
31	4th	21															
OT																	
120 ○		78 ●															

主審:Referee  
高 根 聡 (秋田)  
副審:1stUmpire  
鈴 木 健太郎 (秋田)  
副審:2ndUmpire  
テーブル・オフィシャル:Table officials  
秋田県立横手高等学校

No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F	No.	PI-in	選手氏名	Name of Players	PTS	3 P	2 P	FT	F
4	×	土 屋 真 人	CAP	17	2	5	1	2	4	/	阿 部 隼 平		14	0	4	6	3
5	×	佐々木 健 登		15	0	7	1	2	5	×	小 野 陽 哉		9	0	4	1	4
6	×	松 本 大 河		12	0	6	0	2	6		吉 田 貴 斗		-	-	-	-	0
7	×	野 里 惇 貴		21	5	3	0	-	7		奥 山 丈 一 郎		-	-	-	-	0
8	/	長谷川 暢		6	0	2	2	2	8		高 橋 雄 大		-	-	-	-	0
9	/	畠 山 凌		3	0	1	1	2	9		高 橋 流 星		-	-	-	-	0
10		中 島 強 太		-	-	-	-	-	10	×	大 山 将 斗		11	1	3	2	5
11	/	安 保 友 貴		0	0	0	0	-	11	×	伊 藤 秀 太		5	1	1	0	3
12		小田切 匡 志		-	-	-	-	-	12		佐 藤 竜 太		-	-	-	-	-
13	×	砥 綿 啓 悟		15	2	4	1	-	13	×	工 藤 恭 介	CAP	2	0	1	0	-
14	/	吉 川 雄 磨		6	0	3	0	-	14	/	金 子 湧 聖		2	0	1	0	-
15	/	荒 木 直 直		9	0	3	3	2	15	/	栗 田 将 弥		5	0	2	1	-
16	/	三 根 一 求		3	1	0	0	2	16	/	畑 澤 大 地		18	4	2	2	1
17	/	渡 邊 竜 也		2	0	1	0	-	17	/	鈴 木 尚 輝		6	0	3	0	3
18	/	伊 藤 諒 哉		2	0	1	0	-	18		三 浦 健 人		-	-	-	-	-
19	/	湊 俊 樹		9	1	3	0	1	19		畠 山 雄 丞		-	-	-	-	-
20	/	猪 狩 涉		0	0	0	0	-	20		田 村 涼		-	-	-	-	-
21	/	幸 崎 竜 馬		0	0	0	0	1	21	×	佐 藤 恭 平		6	2	0	0	1
コ-チ		佐 藤 信 長							コ-チ		佐々木 信 吾						
Aコ-チ		平 山 智 哉							Aコ-チ		長 崎 純 一						
合 計				120	11	39	9	16	合 計				78	8	21	12	20

※×:スター /:交代選手 PTS:ポイント 3P:3Pポイントシュート 2P:2Pポイントシュート FT:フリースロー F:ファウル

男子決勝は43年連続43回目の優勝を狙う能代工と初の決勝に臨む平成の顔合わせとなった。オールコートのマンツーマンを敷く能代工に対し、平成はハーフコートのマンツーマンで応戦する。能代工は開始早々から#13砥綿のジャンプショットで先制すると、激しいディフェンスからボールを奪い、#5佐々木や#6松本が着々と得点をしていく。平成は#5小野が初得点して7-2とするも、能代工は#7野里や#4土屋が精度の高い3Pを決め、平成は開始3分でタイムアウトを請求する。その後もディフェンスでプレッシャーをかけたまま、平成の攻撃の芽を摘む能代工は、コート縦横無尽に走り回り、第1Qは41-12で終了した。

続く第2Qも攻撃の手を緩めない能代工は、#5佐々木のドライブや#7野里の連続3Pなどで64-22とし、残り3分には2年生中心のメンバーに替える。平成はそれでも集中力を切らすことなくディフェンスからゲームを組み立て直し、#10大山の3Pや#5小野のジャンプショットで食らいつき、75-30で前半を終了した。

第3Q、能代工は引き続き下級生中心のメンバー構成で臨み、序盤こそ#16三根の3P、#8長谷川のジャンプショットで得点を重ねるものの、開始3分過ぎからは平成のしつこいディフェンスにミスを連発し、得点が止まる。一方平成は息を吹き返し、#4阿部のジャンプショット、#5小野のゴール下、#16畑澤、#21佐藤の連続3Pなどで盛り上がりは最高潮に達する。終始はつらつとしたプレーで躍動する平成が主導権を握り、第3Qは89-57で終了した。

第4Qも1年生中心のメンバーで臨む能代工は、やはりミスが目立ち、#18伊藤や#19湊の鋭い動きから加点してもなかなか点差を広げられない。平成は#16畑澤が思い切りのよい3Pを連続で沈めるなど、序盤は拮抗したゲーム展開を見せた。しかし、残り5分となったところで能代工が3年生を投入すると、#7野里、#4土屋の闘志溢れるプレーでチームを牽引し、しっかりと試合を締めくくった。終わってみれば120-78で能代工が43回目の優勝を飾った。